

関孝和三百年忌と関孝和三百年祭記念事業について

真島 秀行

0. 序

前号(第11巻第3号)に関孝和三百年祭記念事業趣意書及び松本堯生担当理事の「関孝和三百年祭記念事業について」という会報記事が掲載されていますが、関孝和三百年忌の年である2007年を迎えました。

関孝和先生は算聖と称される日本が世界に誇るべき江戸時代の数学者(和算家)で(佐藤健一氏の記事[1]を参照),宝永5年10月24日に物故せられましたが,それを西暦に直しますと西暦1708年12月5日になりますので,本年が三百年忌にあたります。(詳しい計算は[2]を参照.)

百年忌は1807年で江戸時代ですが,その少し前の寛政6年10月望日(15日)(西暦1794年11月8日)に本多利明等8名が関孝和先生の墓を修復し石碑を建てています。([3]に収録されている本多利明等の碑文参照.)二百年忌は明治40年(西暦1907年)にあたり,東京数学物理学会が執り行っております。会員の皆様をご存知のように,日本数学会は,明治10年(西暦1878年)に東京数学会社として発足し,その後,明治20年(西暦1888年)に東京数学物理学会と発展していきましたが,その二十年目の記念の年が関孝和先生二百年忌の記念すべき年でもあったのです。その後,二百五十年忌は昭和32年(西暦1957年)になりますが,昭和33年(西暦1958年)に,日本数学会は二百五十年祭として記念学術講演会を開催しています。

過去を振り返り,三百年祭記念事業としてどのようなことが現在計画中なのかご報告させていただきます。

1. 関孝和先生二百年忌記念事業

東京数学物理学会は関孝和先生二百年忌の何年も前から「関流算法七部書」の出版などいくつかの記念事業を計画しました。明治40年4月6日の学会の例会で(川北朝鄰氏が式辞を読み上げたのみの)記念式典を挙行,9月に上掲書を発行しました。他方,同6月の通常会で「関孝和先生の事業及び本朝数学の一斑を広く世人に知らせるため本朝数学通俗講談会を催す」ことの発議があり,二百年忌当日12月5日には本朝数学通俗講談会を開催しています。「聴衆一千有余名で非常なる盛会であった」とのことです。([3])

講演会は藤澤利喜太郎氏が座長として,開会の辞を述べ,和算保存に功績のあった川北朝鄰氏,遠藤利貞氏を壇上に上げて紹介し,講演もお願いしたいところではあったが年齢と時間の関係から行わず,講演記録出版の際に記事を寄せることにした旨,説明をしています。実際の講演は以下の三つ

林鶴一氏「関孝和先生の事蹟について」

狩野亨吉氏「記念すべき関流の数学家」

菊池大麓氏「本朝数学について」
であり、講演集には
川北朝鄰氏「関夫子以降本朝数学の進歩並に学戦」
遠藤利貞氏「関孝和先生贈位についての所感並に同先生学業の大略」
も附録として収録されています。

なお、「本会の催しではないが、男爵菊池大麓氏其他有志の発起で、同年 11 月 15 日に
関先生に従四位が贈られた」のを記念して 12 月 6 日に、関先生の墓のある東京都新宿区弁
天町の浄輪寺で贈位奉告祭を行い、その式次第も講演集に掲載されています。

さらに、藤澤利喜太郎氏の開会の辞にあるのですが、「関先生の芳名を不朽に伝え且つ数学
の進歩を奨励するために数学上功績のあった本邦人に授けるもの」として関賞牌を設ける計
画がありましたが、寄付金を募ったものの十分な額を得ることができず断念したことも書か
れています。

その後、昭和 4 年に生誕地と考えられている旧藤岡町に算聖関孝和先生の記念碑（算聖之
碑）が建立されました。昭和 63 年には、算聖関孝和先生之像が藤岡市市民ホール前に建立
され、算聖之碑も傍に移転されています。関孝和賞の副賞のブロンズ像はこの座像を模した
もので、藤岡市から寄贈を受けています。（[1]の岡本和夫氏の記事参照。）

2. 関孝和二百五十年祭

二百五十年忌は昭和 32 年（西暦 1957 年）になりますが、昭和 33 年（西暦 1958 年）に
は、日本数学会は 1958 年度の秋季総合分科会が京都大学で行われた機会に、10 月 25 日に
関孝和 250 年祭記念講演会を開催しています。その記録が雑誌数学第 10 巻 3 号に「特集 関
孝和 250 年祭」として収録されています。

藪内 清氏 「中国の数学と関孝和」
細井 淙氏 「関孝和の数学の成立」
加藤平左エ門氏 「関孝和の業績について」
大矢真一氏 「関孝和の経歴について」
小堀 憲氏 「日本の数学」

また、上にも書きましたが、お墓が東京都新宿区弁天町の浄輪寺にある関係で東京都教育委
員会、新宿区教育委員会等とともに墓前祭・講演会・記念事業（記念碑復元、墓所整備、東
京都史跡指定等）を行いました。講演会は

平山諦氏 「関孝和の著書と業績」
細井淙氏 「席孝和と遺題」

の二つでした。（[4]）

日本数学会の関孝和二百五十年祭への関与については雑誌数学第 10 巻 3 号の巻末に「関
孝和 250 年祭について」という文のなかで解説されています。これらの記念行事については、
小倉金之助氏の助言を受けたとのことでした。

ところで、墓前祭を機会に野口泰助氏、下平和夫氏、萩野公剛氏が算友会を発足させ、それが発展解消して昭和 37 年（西暦 1962 年）には日本数学史学会が組織されました。

3. 三百年祭の計画

三百年忌にあたり、どのように関孝和先生の業績を顕彰し、また、今日の日本の数学を広く世界に知ってもらうにはどうしたらよいか、という課題について、日本数学史学会運営委員会は一昨年より、その準備を行うべく記念事業実行準備委員会を組織し、また、日本数学会も昨年 1 月に記念事業検討 WG を立ち上げ記念事業実行準備委員会に参加しました。昨年 3 月 25 日開催の記念事業実行準備委員会で以後は実行委員会に移行することとし、和算に関心をもつ各方面の方々に第 1 回記念事業実行委員会を昨年 5 月 7 日に開催することを通知しました。当日、全国から参集しました 40 名ほどと賛同の返事を出した者をもって実行委員会は発足し、記念すべき年に、いくつかの記念事業を行うこととなりました。

- 1) 博物館等における展示会
- 2) 国際研究集会
- 3) 講演会
- 4) その他の関孝和先生顕彰事業

このような記念事業により、関孝和先生の数学およびその後の発展を国際的に専門家および広く一般の人々に紹介すると共に、日本社会において江戸時代のように数学力を尊びその向上とその方面の人材育成を図りたいと考えております。なお、これらの記念事業を行うためには財政的裏付けも必要であり、競争的資金等の獲得にもつとめますが、募金活動も行うことになりました。日本数学会が事務担当で

郵便振替口座番号：00110-4-649800

口座名称：関孝和三百年祭記念事業

で既に募金を受け付けております。事業の趣旨に多くの方々のご賛同をいただけることを願っております。学会としては、日本数学史学会、日本数学教育学会、数学史教育研究会、数学教育学会、日本数学協会等が賛意を表してくださっています。募金趣意書等体裁を整え本格的に募金活動を実行委員会が中心になって行っていく予定です。

関孝和三百年祭の起点は、2007 年 12 月 5 日、終点は 2008 年 12 月 5 日としますが、その前後からおよそ 13 ヶ月の間に関連事業が行われることになる予定です。

すなわち、2007 年 12 月 1 日（土）か 2 日（日）に三百年忌法要を行い、講演会も併設して、今後 1 年間の事業展開の起点とします。その後、いくつかの博物館等で展示会、併設講演会が行われる予定です。

日本数学会が今年度から後援することになった（他に、日本数学教育学会、読売新聞東京本社、日本数学協会、日本数学史学会、数学史教育研究会、東京書籍が後援していますが）

第9回 算額をつくろうコンクール(応募締切は1月末日)は,第10回「和算に学ぶ」(NPO法人 和算を普及する会 主催,3月11日,於江戸東京博物館)で授賞式および講演会が行われる予定ですが,来年は,関孝和三百年祭記念行事の一つとなるでしょう。

また,2008年10月末から12月の間の適当な6週間くらいには,国立科学博物館の「日本の科学者技術者展シリーズ」のひとつとして,関孝和先生を含む和算家と高木貞治先生,小平邦彦先生に関する展示会「数学者展」(仮称)も計画されています。特に,近代,現代の数学を広く一般に知らせる活動は日本数学会の設立趣旨にかなうものであり,会員の皆様のご協力のもとに成功させたいと願っています。

国際研究集会としては,小松彦三郎先生を中心として数名の関孝和三百年祭記念国際研究集会組織委員会が形成されつつあり,2008年8月下旬くらいに「アジア圏の数学史」(仮称)について,東京理科大学神楽坂校舎で行われる計画があります。

講演会の記録等いくつかは,雑誌「数学」あるいは雑誌「数学通信」に掲載されることになるだろうと思います。筆者は雑誌「数学」の第50巻当時の編集委員長を務め総目次の刊行等を行いました,編集委員会用資料の編集企画として,「第60巻 関孝和 三百年祭」を挙げておきました。現在の雑誌「数学」の編集委員会にもそれは伝わっていると思われま

す。

以上のようなことで,日本数学会として主に関わる事業は,国立科学博物館等における展示会,国際研究集会,講演会,その他の関孝和先生顕彰事業となります。

関孝和三百年祭記念事業活動に多くの方々が加わってくださることを願っております。

参考文献

- [1] 佐藤健一,和算家関孝和の人と業績,数学通信第1巻第4号,日本数学会,平9(1997)年,pp89 - 99;岡本和夫,社団法人日本数学会 50周年記念講演会について,同掲書,pp4 - 6
- [2] 真島秀行,角についての数学,数学通信第10巻第2号,日本数学会,平17(2005)年,pp38 - 52
- [3] 関孝和先生二百年忌記念 本朝数学通俗講演集,東京数学物理学会,大日本図書株式会社,明治41(1908)年
- [4] 奉賀関孝和先生二百五十年祭 関孝和先生の伝記と著書,関孝和先生二百五十年祭奉賀会編,新宿区教育委員会事務局発行,昭和33(1958)年
- [5] 特集 関 孝和 250年祭,雑誌「数学」第10巻,日本数学会編集,昭和33(1958)年,pp133 - 147;関孝和 250年祭について,同掲書,p196

(まじま ひでゆき・日本数学会関孝和三百年祭記念事業実行WG代表
/関孝和三百年祭記念事業実行委員会日本数学会代表)